



Kansai Gaidai University  
情報化推進戦略2025

1. 情報化推進戦略策定の経緯と目的 …………… (1)
2. 情報化推進戦略の基本方針 …………… (3)
3. 当面する施策の実施方針 …………… (4)
4. 当面する個別の施策 …………… (5)

# 1. 情報化推進戦略策定の経緯と目的

## (1) 社会の高度情報化と大学DX（Digital Transformation）

情報技術の急速な進化は、社会のあらゆる領域において構造的な変革をもたらしており、AI、IoT、ビッグデータ、クラウドコンピューティングといった技術が社会の様々な分野に浸透し、業務の効率化や新たな価値の創出をもたらしている。

教育・研究機関としての大学もまた、この変革の潮流に適応することが求められている。大学におけるDX化は、単にデジタル技術を導入することにとどまらず、教育・研究の質的向上、学修環境の最適化、さらには大学運営の効率化を包括的に推進するものであり、大学が果たすべき社会的責務をさらに深化させるものである。

この変革のもと、オンライン教育の充実、データ駆動型の教育支援が進み、学生一人ひとりに適応した学習環境の提供が進められている。また、情報技術の積極的な活用により、大学運営における業務プロセスの抜本的な改革が促され、教職員が教育・研究により一層専念できる体制が確立されつつある。これらDXの推進を通じて、大学はより創造的かつ持続可能な教育・研究機関へと進化することが求められている。

## (2) 本学における情報化推進の歩み

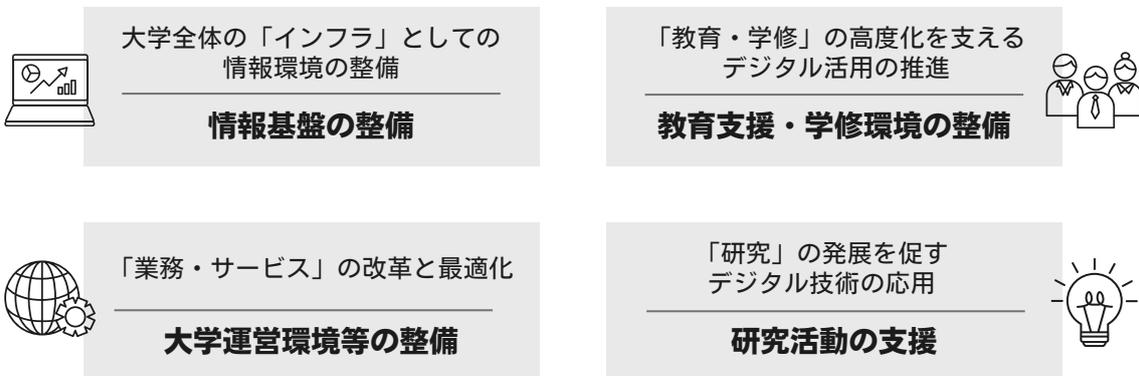
本学は、1978年に情報システムの整備に着手して以来、約半世紀にわたり、教育・研究および大学運営の情報化を一貫して推進してきた。2009年には、将来構想基本計画「ルネサンス2009」を策定し、長期的な視野のもとで教育・研究環境の充実に努めてきた。その後、2019年には「関西外国語大学 ビジョン・中期計画」を発表し、本学DXの推進を本学の戦略的課題として掲げた。

この中期計画において、本学はICTおよびAIを活用した教育・研究環境の整備を重要課題と位置付け、デジタル技術を活用した柔軟かつ個別最適化された学習環境の構築を目指してきた。情報化の推進は、学びの多様性を拡張し、新たな知の創造を促進するための根幹をなすものであり、本学は、こうした環境の実現を通じて、さらに進化することを目指していく。

### (3) 情報化推進戦略策定の目的

本学が策定する「情報化推進戦略2025」は、「関西外国語大学 ビジョン・中期計画」の理念を継承しつつ、今後5年間（2025-2029年度）にわたり本学が取り組むべき情報化戦略の方向性を明確に示すものである。情報技術の進化が未曾有の速度で進展する中、大学はこの変化に適応し、教育・研究・大学運営の質を向上させながら、持続的な競争力を確立することが求められている。本学はDXの本格的な推進を通じて、教育機関としての社会的価値をさらに高め、次世代の大学運営を支える強固な情報環境の整備に取り組んでいく。

本戦略では、以下の4つの重点分野を基軸に、統合的かつ計画的な情報化を推進する。



これら4つの柱を礎とし、全学的なDXの推進を加速させることで、教育・研究、大学運営の各領域における持続的な発展を実現する。

## 2. 情報化推進戦略の基本方針

次に示す基本方針に基づき、情報化推進の4つの重点分野において各種施策を策定して、包括的に整備・改善を推進する。

### (1) 情報基盤の整備

情報基盤の整備は、今後の社会・技術の進展に対応するための重要な要素であり、次世代の情報化を支えるための戦略的な整備が求められている。本学ではVRやDeep Learningの発展、さらにそれらを活用したデジタルコミュニケーションの進化を見据え、大容量のデータを円滑に利用できる環境を整備する。

クラウド戦略の推進においては、オンプレミス、SaaS、PaaS、IaaS等の各種クラウドサービスのメリット・デメリットを十分に評価し、セキュリティやコスト、運用の経験を踏まえた最適なクラウド戦略を策定・実行する。この戦略は、柔軟かつ効率的なサービス提供を実現し、大学全体の情報基盤の強化に寄与する。

また、信頼性の高い認証基盤を整備し、基本ID情報の統一と個々の属性情報の適切な管理を行うことで、データや資源、ICTサービスの利用をより安全かつ円滑にする。さらに、情報セキュリティの強化は喫緊の課題であり、本学は新たなセキュリティ対策を導入するとともに、構成員のセキュリティリテラシー向上に努める。加えて、情報環境を支える人材の育成にも力を入れ、リサーチエンジニアのキャリアパスを確立することで、持続可能な技術基盤を提供する。

教育支援においては、LMSや教務情報支援システム、教材開発、ICT人材育成などの基盤情報システムを統合的に整備し、教育の質の向上と、学びの多様化・高度化に対応する環境を整備する。

### (2) 教育支援・学修環境の整備

情報化社会において学生と教職員に対して最適な教育環境を提供するため、教育学習支援システムとしてLMSやCMSの積極的な活用を推進する。これにより、学生への効果的な学習支援を実現するとともに、教職員に対しても情報リテラシー向上やオンライン教材の提供・開発支援を強化し、教育の質を向上させる環境を整備する。

また、オンラインコミュニケーションツールの活用を促進し、学生と教職員間の円滑な意思疎通を図る。進化を続けるメッセージアプリ等を教育の場面に適用し、外国語大学としての強みを生かしながら、大規模言語モデル（LLM）による機械翻訳や同時翻訳技術を教育支援に取り入れることで、より高度な学習環境を提供する。

さらに、学生が多様な手段で教育サービスにアクセスできるよう、BYOD（Bring Your Own Device）や仮想化技術を活用し、柔軟な学習環境を整備するとともに、デジタル教育プログラムの一環として数理・データサイエンス・AI分野を強化し、正式な教育課程として、または自主学習の機会としてオンライン教材やツールを提供し、学びの多様化を支援する。加えて、オンライン教材の提供や開発を積極的に進め、他大学や関連機関との協力・共同を視野に入れながら、教育支援の質をさらに高める取り組みを推進する。

これらの施策を通じて、本学は時代の変化に対応した先進的な教育環境を構築し、学生の学習機会の拡充と教育の発展に貢献していく。

### (3) 大学運営環境等の整備

大学運営におけるDX化を推進し、ICTの活用による業務の効率化と質的向上を実現する。これにより、教職員の業務負担を軽減しつつ、生産性と業務の精度を向上させる。さらに、強固な情報基盤の構築とデータ活用の促進により、組織全体の連携を強化し、リアルタイムな情報共有とデータドリブンな意思決定を可能にすることで、適正なガバナンスを確立する。加えて、生成AIや高度なデータ分析技術を活用することで業務の高度化を推進し、より精度の高い分析や予測に基づく戦略的な施策立案を実現する。

これらの取り組みにより、DXを推進する人材の育成と組織的な支援体制の整備を進め、変化に柔軟に対応できる強靱な大学運営を確立するとともに、持続可能な発展を目指す。

### (4) 研究支援戦略

研究活動支援においては、研究支援システムとデジタルリソースの提供環境を強化する。研究費管理システムの刷新により、研究資金の効率的な管理と教職員の業務負担軽減を図ると同時に、デジタルコンテンツの利用拡大により、大学の研究基盤を強化する。また、オープンアクセス方針に基づく研究データ管理体制を整備し、中長期的な研究データの保存・共有を実現し、研究用ソフトウェア利用環境を整備することで、大学全体の研究力向上に貢献する。

## 3. 当面する施策の実施方針

本施策は、5年間で完結する中期計画として、①情報基盤の整備、②教育支援・学修環境の整備、③大学運営環境の整備、④研究活動支援の整備の4分野にわたる施策（「4. 当面する個別の施策」）を統合的に推進し、大学全体の情報化を推進することを目的とする。

各分野の施策を確実に実行するため、施策ごとに定量指標・定性指標のデータを定期的に収集・分析し、情報化戦略・推進会議を通じて施策の進捗を点検し、必要に応じて改善を行う。また、施策の有効性を高めるため、関係部署等と連携しながら必要な調整を迅速に行い、戦略を適宜見直し、最適化を図る。

このように体系的な検証と評価を継続的に行うことで、情報化推進の効果を最大化し、大学全体のDX化を推進する。

## 4. 当面する個別の施策

### (1) 情報基盤の整備

#### 認証基盤整備

- ①情報システムの更改計画の策定
  - ・ 認証基盤（統合ID管理システム）と仮想基盤の再構築を見据えた現行基盤の更新計画策定等
- ②基盤系システム再構築の方針策定
- ③大学連携を実現する認証基盤の整備
  - ・ 学認/eduroamに参加するために学内設備の要件抽出と長期計画策定



#### 情報セキュリティ対策の強化

- ①クラウドサービスとオンプレミスとの比較考察
- ②セキュリティ診断／教育の活用検討
- ③セキュリティインシデント発生時の対応整備
  - ・ CSIRTの設置検討



#### 情報システムの改修プロジェクト管理

- ①基幹システムのパッケージリプレイス計画の策定・実施
  - ・ 教学システム：  
現行のスクラッチシステムに替えて、2027年度をターゲットにパッケージシステム導入
  - ・ 入試システム：  
現行のスクラッチシステムに替えて、2027年度入試をターゲットにパッケージシステム導入
  - ・ パッケージに含まれない現行基盤上の機能への対応
    - a. 現行システムの継続（基盤環境は縮小）
    - b. 別基盤環境での再構築（ノーコードツールでの内製含む）
    - c. パッケージシステムへのアドオン開発、またはファイル連携・ウェブ連携などによるアプリ開発
- ②パッケージオプション機能の導入検討



#### 教職員メールシステムの更新

- ①教職員メールシステムの更新対応



## 情報機器、ソフトウェアの保守/ライセンス契約内容の検証・改善

- ①2025年度以降の各機器・サービスの更新計画を策定
  - ・ベンダーロックインの対象システムの洗い出しと代案検討
  - ・各種ライセンス数の妥当性の確認・適正化
  - ・各部署で契約しているクラウドサービスの集約化
  - ・BYODに基づく設備などの中期更新計画策定



## ネットワーク基盤の整備

- ①ネットワーク基盤の更新計画の策定
  - ・冗長化・高速化の検討
  - ・マイクロセグメンテーション化等の検討



## Wi-Fi環境の整備

- ①Wi-Fi環境の更新計画の策定
  - ・今後の教育／研究／事務それぞれの無線ネットワークに対する要求事項と現行のギャップを調査（短期、長期）および更新計画策定



## (2) 教育支援・学修環境の整備

### 学生のデジタルリテラシーの向上

- ①全学生を対象とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムの策定
  - ・「KGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の策定・実施
  - ・情報関連科目のアップデート
- ②情報系を重視する学科におけるデジタル関係科目の改革
  - ・既存の情報関連科目の整理・充実の検討
  - ・最先端の情報技術の教育活用への検討



### 学修環境の整備

- ①教室環境・学修管理・支援システムの整備による授業の質の向上
  - ・授業におけるBYOD端末活用状況の把握
  - ・BYOD端末を活用した授業を想定した教室を整備
  - ・LMSやクラウド学習ツール、チャットツール導入の検討
- ②オンライン教材・学習ツール導入による学修の効果・機会の向上
  - ・オンデマンド型授業科目の検討
  - ・オンラインでの個別最適化した学習機会の提供



### (3) 大学運営環境等の整備

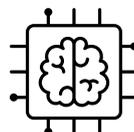
#### ICT化による運営の効率化

- ①業務プロセスの標準化・効率化
  - ・システム導入による業務の自動化
  - ・電子文書管理システム、ワークフローシステム、AI-OCRの導入検討
- ②業務システムの再構成
  - ・教学システムと入試システムのリプレイス
  - ・職員による業務システムの開発
- ③クラウドサービスを活用した情報共有ツールの整備
  - ・クラウド型プラットフォーム導入による業務ツール集約化の検討
  - ・業務ツールの運用ルールの策定
  - ・ビジネスチャットツールの導入



#### ICT化による業務の質的向上

- ①生成AIの業務ツールとしての活用
  - ・AI活用ガイドラインの策定
  - ・AI活用推進プロジェクトチームの立ち上げ検討
  - ・AIの業務活用事例の創出と共有
  - ・AIチャットボットの全学的展開・活用
- ②データ活用環境の整備
  - ・IRをはじめとした各部署におけるBIツールの導入検討
  - ・EAI導入による基幹システムと各種システム間の連携の検討



#### DX人材の育成

- ①組織的かつ継続的なDX推進体制の構築
  - ・DX推進リーダーの各部署への配置などの全学的な推進体制の構築
  - ・職務に応じたDX人材育成計画の策定
  - ・職員のIT資格取得を奨励し、DX人材の裾野の拡大



## (4) 研究活動の支援

### 研究支援システム

- ①新研究費管理システムの導入
  - ・研究費に関わる手続の一元化および簡素化の検討
  - ・ノーコードツールの活用推進
- ②研究者を扱うシステムの更新
  - ・researchmap研究業績情報との連携を前提としたパッケージの導入検討
  - ・研究倫理教育の紙による受講環境からの改善
- ③研究資料収集の高度化
  - ・研究資料収集の高度化のための検討
  - ・デジタルコンテンツの提供および利活用



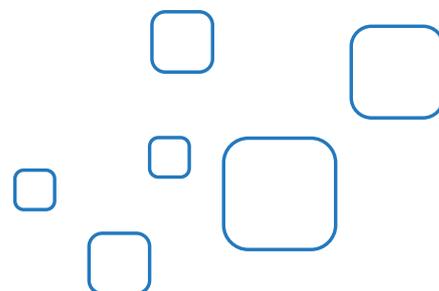
### 研究データ管理

- ①研究データ管理環境の整備
  - ・全学的な研究データ管理支援体制の構築
  - ・研究データ環境の構築



### 研究者のためのデジタルツール・リソース

- ①研究活動不正防止
- ②研究用ソフトウェア利用環境の整備



 関西外大

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY  
KANSAI GAIDAI COLLEGE

関西外国語大学  
情報化戦略・推進会議

2025年3月